
東海医歯薬主管係 の場編

学籍番号：

名前：

§ 当日の流れ (概略)

① 大会 1 日目

- ・ 付け矢
- ・ 開会式
- ・ 矢渡し
- ・ 団体戦 1、2 立目

② 大会 2 日目

- ・ 団体戦 3 立目
- ・ 団体同中
- ・ 個人戦 1 立
- ・ 個人戦 2 立
- ・ 決勝個人
- ・ 射詰め、遠近
- ・ 納射
- ・ 閉会式

男子 1 立目→女子 1 立目→男子 2 立目→女子 2 立目・・・

§ チーム分け

① 概要

- ・ 的場係を前看的担当と後看的担当の 2 チームに分け、看的や矢取りを行う。
- ・ 前看的、後看的のそれぞれで必要な人数は以下の通り。

看的時 (1)看的 2人

(2)審判的 2人(上級生)

(3)矢返し 1人

矢取り時 (1)看的を戻す人 1人 (その後矢返しをする)

(2)矢取りをする人 6人 (5 人以下で行う可能性もある、③参照)

(3)トランシーバーで進行に連絡をとる人 1人(上級生、基本は河合、耒谷)

③ チーム構成 (敬称略) (場合により変更有)

前看的リーダー 耒谷 後看的リーダー 河合

前看的：岩瀬、杉浦 (琢)、井澤、耒谷、山口、梶原、小永井、荒川、大澤、鎌田、柘植、

菱田

後看的：西、馬場、森下、市川、河合、栗田、土屋、渥美、小俣、平田、杜

③注意事項

- ・団体戦は、(人数が足りていれば) 一人一的で矢取りを行う。
- ・個人戦においても基本一人一的で行いたいですが、体力的にきつそうなときや、試合への出場によりの場の人数が取れないときには一人二的、一人三的で行うこともある。その場合はその時の指示に従うこと。

§ 的替え (的付け)・幕張り

① 的替えの仕方

的替えを行う前に、水を十分に撒く。(乾燥している場合)

(1) ひもを張り、その下から **ひもに触れないよう** 的串をさす。(錬成館では安土の上にある)

※錬成館の紐には印がないため **的の間隔 150 cm** で前日の夜に印をつけておく。

※ **的串が元々刺さっていたら、的替えの際も抜いてはいけない。**

※ 小的は、通常より **6cm** 的串を下げてつける。(中心を揃える) (上級生が行う)

(2) 的を安土側に 5 度傾けてつける。

(3) 仕切り棒は団体戦では男子団体 1 本、女子団体 3 本、個人戦では 3 本おく。

※ **射詰めでは 1 本おき、遠近では棒をはらう。**

※ 3 本おく場合は、前から 1 の棒、2 の棒、3 の棒と呼ぶ。

② 的替えの手順

(1) 進行からの合図で赤旗を出し、①(1),(2)のやり方で的を掛ける。

(2) **的を掛けたらすぐに**、自分の担当の射場の方に分かれて矢道のわきに並び、進行の指示を仰ぐ。

(きよろきよろせず、的の方を見て指示を待つ)

(3) 的つけ終了後、1 (または 3) 人は仕切り棒をおき、後ろの的が見える位置に立ち、進行の指示を仰ぐ。

(4) 各団体の代表者による的の確認があるので、(2)と同様に進行の指示を仰ぐ。

※ 付け矢・矢渡し・納射の前の的替えは浜医だけで行うため、(4)の操作はない。

(5) 「ありがとうございました。」で終了。直ちに看的へ戻る。

※ 矢渡し・納射の前は、(1)、(2)、(5)の操作を行う。(的の後方で指示を仰ぐ)

※ 最多的中同中・射詰め・遠近の前は、1 的につき 1 人が出てきて以上の操作をする。

(遠近では的の後方で指示を仰ぐ)

※付け矢、団体3立目、個人戦予選後に的替えを行う。(すべて紐を張って行う)

③ 幕張り

- (1)幕のひもの中心を上につけ、ひもを引っ張りつつ、台に乗りひもを引っ掛けていく。
- (2)左右の余った部分は看的扉の内側に巻き込み、ガムテープで貼りつける。
- (3)真ん中の下部は5cm×5くらいを目安に折り込み、飾りをつけて進行に指示を仰ぐ。

※15分以内を目標に幕をつける。

※細かな担当

水かけ・全体への指示：末谷

幕の紐を掛ける人：大澤 菱田

飾り、幕を折る：山口 渥美 小俣

§ 競射の流れ

- ①安全を確認して赤旗をしまい、競射開始。
※トランシーバーは電源を入れた状態で、音量は最大にしておく。また、何か連絡があったら必ず返事をする。(了解しました。で統一)
- ② 看的で○×を表示する。(同時に、審判的で射場方向に連絡する)
- ③ 競射が終了し、記録係が白旗を出す。
- ④ 進行係から「赤旗お願いします」の指示の後、第一射場と第二射場で**同時に**赤旗を出す。
その後、両看的同時に手をたたく。(前看的の人が先行して行う)
- ⑤進行係からの「お願いします」の後に、矢取り担当、連絡担当が出る。
- ⑥矢取り担当は的中箱を出し、第一射場の連絡担当は中央で右手を上げ、第二射場の連絡担当は左手を上げる。
(逆の手でトランシーバーを耳に当てる、前看的の人が的中箱に重ならないように注意)
- ⑦記録係は問題がなければ白旗、再確認等があれば赤旗を上げる。
- ⑧再確認がある場合は進行係がトランシーバーを使って看的へ連絡をする。
- ⑨連絡担当は、再確認を承ったら該当の的まで移動し的中数を確認する。(「確認します。第○射場 □的 △中です。」と射場に聞こえるように言う。トランシーバーで「了解です。」といわれるまで待つ。)
- ⑩記録係の旗が全て白旗の状態になる。連絡担当は中央へ戻る。
- ⑪確認が終了したら、進行係が的場へ「ありがとうございました、矢取りお願いします」と伝える。

⑫矢返し担当は看的表示を直す。矢取り係は矢取りを開始する。連絡担当は**的中箱を回収しつつ**看的へ帰る。(人数に余りがあれば的中箱の回収を手伝う。)

⑬矢取り係も看的へ戻って安全確認ができたなら、第一射場、第二射場で**同時に赤旗をしまう**。
②に戻る。

⑭矢拭きをして輪ゴムをつけたら、矢返し担当が矢返しをする。(輪ゴムは矢がバラバラにならないように矢の中央あたりに来るようにする)

※④～⑬までを **40秒以内**に行う。再確認があれば **20秒延長**した程度を目標に。

※矢拭きは2,3人で行い、次の立の仕事に取り掛かれるようにする。(丁寧)

§ 看的表示・審判的

①看的表示

- ・表示を後から直したり、次の的中がでた後に出したりしない。
- ・的中の是非のみを正確に表示する。つまり**中っているものは○、抜いたものは×**というルールを厳守する。

(例) 時間切れ・追い越しで的中した場合 ⇒ 看的○

掃き中り、盗的 ⇒ 看的表示×

- ・筈こぼれによる失は×を出す。(進行からの指示を待つ)
- ・錬成館では看的板が壊れているため、ホワイトボードで看的表示を出す。
(あいまいなものは?を出すようにする。)(審判的をみて素早く出すようにする)
(後看的は窓から○×の団扇および手での数字により窓から伝える)
- ・「ありがとうございました。矢取りをお願いします。」の放送後マグネットをすべて取る。

②審判的

- ・大きい的で看的から近い方の3的、小さい的で遠い方の3的の的中を表示する。
- ・大きい的は安土側から上に、小さい的は射場側から下に出す。
- ・的中の場合は的面を射場方向へ見せ、はずれた場合は裏側を見せる。分からない場合は側面を見せる。
- ・的の半分以上を2秒程度見せ、**的を持つ手が看的から出ないように気を付ける**。
- ・審判的の担当は**常に的を見ていて**、看的表示の担当に「○的マル or バツ」と伝える。
- ・特に射詰めなどの場合、**矢の着順で審判的を表示する**。

③的の中箱の扱い

- ・的の中箱を誰がどの的に置くかを確認しておき、自分の担当の的の的中数も確認しておく。
- ・右手で上側を持ち、的の中が残念でも**開いた状態にして**持つて行く。
- ・残念は箱をつぶし、上面を射場側に向ける。
- ・幕の下の**くらいの位置に的中箱が並ぶようにして置く。**(手は伸ばしてそえる)
- ・的中数は目視で再確認をする。

§ 矢取りの方法

①矢取りの流れ

- (1)連絡係の「矢取りをお願いします。」の「す。」で矢を抜く。
- (2)矢を抜き終わったら胸の前で矢を構える。
※この時、第一射場と第二射場では**羽根の向け方が逆**なので注意。
- (3)第一射場、第二射場の落ちにあたる人は、六人が矢を抜き終わったのを確認し、大前にあたる人に聞こえるように声をかける。
※第一射場では「ハイ!」、第二射場では「よし!」とかけ声を使い分ける。
- (4)(3)を聞いたら全員同時に立ちあがり、順に掃けていく。
※**第一射場はそのまま大前から掃けていき、第二射場は回った後に落から掃けていく。**

②矢取りの細かな動作

(1)歩き方

- ・手を振らず、小股で、4メートル先を見て歩く。
- ・矢を跨がない、踏まない。
- ・**走らないように、しかし早く移動する。**
- ・移動は幕の内側で全ての動作を行う。

(2)回り方

- ・**背中(お尻)を射場(上座)に向けないように回る。**

(3)座り方

- ・上体はそのままにして腰を下ろした状態で右膝、左膝の高さを合わせる。
男子は両膝の間をこぶし2つつ分け、女子は閉じる。(蹲踞)
- ・右手で的の中箱をおさえ、左手は正しい位置に置く。
的の中が残念の場合(的の中箱をたたむ)でも、的の中箱に手を触れるような形にする。
- ・姿勢と目線に気をつける。的や射場を見たりきょろきょろしたりせず、正面を見る。
- ・的の中箱は自分が蹲踞した後に自分の真横におく。
第一射場の落ちの人は、連絡係とかぶらないように、**若干前に置く**ように気をつける。

- ・ 的中箱で表示する的中数も、§ 看的表示・審判的①の方法に準じる。
- ・ 再確認で訂正があった場合、的中箱の数字も変える。

(4) 抜き方

- ・ 左手で的をおさえて、右手でまっすぐぬく。
- ・ 1本ずつ抜き、抜いた矢は左手で持ちながら右手で抜いていく。

(5) 持ち方

- ・ 第一射場(前の六的)では、羽根が右側を向くように持つ。
右手で羽根の根元を持ち、左手で矢尻から10 cm上を持つようにする。
- ・ 第二射場(後の六的)では、羽根が左側を向くように持つ。
右手で矢尻から10 cm上を持ち、左手で羽根の根元を持つようにする。

④ 矢返し

- ・ 後ろ側の矢取り道から矢返しを行う。(前看的の人は、安土の裏側を通る)
- ・ 羽根が左側に向くように持ち、胸の前でしっかりと矢を保持する。(振らない)
- ・ 射場をまたいだ矢には注意し、必要ならば前後の矢返し担当で矢の受け渡しを行う。
- ・ 抜いた矢に異常があれば、詳細を受付に報告する。
- ・ 後看的の矢返しの人は前看的の矢返しの人が来るまで待つ。(合流していく。)
- ・ 輪ゴムは矢がバラバラにならないように矢の中央あたりに来るようにする。

④ 再確認 (連絡担当)

- ・ 再確認の具体的な流れ

(1) 「○的と○的の確認をお願いします」

(2) 聞き終えたら、初めに再確認するの後ろへ移動する。

(3) 射場に聞こえるように「第○射場○的○中です。」と言いながら、トランシーバーを持っていないほうの手で的中数を示すが、**進行の「了解です」と聞くまではその姿勢を保つ。**

(4) 1つ目の的が終了し、進行の指示を聞き終えた後、振り返って次の的へ行く。

(5) 同様に再確認する。問題がなければ白旗が上がったままになるので、中央へ戻る。

※前後で同時に再確認があった際は、最初は前から再確認をして、その後は交互に再確認を進めていく。(かぶらないように)

- ・ 的や的中箱に被らないようにする。
- ・ 的の後ろに立ち、腰を折り、トランシーバーを持たない方の手の指で数字を作り、地声とともに記録係へ伝える。了解が来るまでこの姿勢で待つ。
- ・ 連絡係は基本的に中央に立つこととなるが、前射場落ちの的中箱とかぶりやすいので注意する。
- ・ 射詰めの時など、**第一射場だけの連絡係が必要なときには、矢が刺さっている最後の的**

の後ろに立ち、

進行の再確認を待つこと。この場合、第二射場もあわせて赤旗を出す、連絡係は当然でなくてよい。

・射場の呼び方は、**団体戦では第一、第二射場**であり、**個人戦では第一、第二、第三、第四射場**となる。

・的の呼び方は、「大前・**二的**・三的・四的・落ち前・落ち」もしくは「大前・中・落ち」で統一する。

(再確認することはないが、遠近の際は○番的という呼び方を用いる)

・一手競射での的中数の言い方は「残念、羽分け、束中」であり、射詰めでは「残念、的中」となる。

§ 緊急事態

① 的ずれが発生した場合

・的がずれた時、記録係の判断で、あるいは選手の介添えが申し出てきた場合に、競射を一時停止する。

・その後、トランシーバーで看的に指示が来るので、的中を**地声**で確認したのちに的ずれを直す。

・**的ずれを直す人の後ろから、替え的を持ってもう一人がついていく。**

・的から直ちに矢が抜けない場合は替え的に交換する。

・**矢は全て抜く。**

※通常の矢取りの際に矢が抜けない場合もあるため、**替え的は常に1つ看的の出口付近に置いておく。**

② 横矢が発生した場合

・的ズレと同じで、トランシーバーで指示が来たらその通りに動く。

・**対象の横矢が的に触れていない場合、的中確認は必要ない。**

③ 矢道に矢が刺さった場合

・競射中は特に指示がない限り動かなくてよい。(進行からの指示をまつ)

・人手が足りていれば担当者を事前に決めておき、足りていなければ**連絡担当**がその矢を取りに行く。(看的に戻ったのちに取りに行く)

④ 幕に矢が刺さった場合

・基本的には動かなくて大丈夫だが、連絡があった場合は取る。

- ・的中確認は不要だが、**不測の事態の時は確認しても何も問題ない。**

⑤ 矢取り時に的がずれてしまった場合

- ・矢取り時に的がずれた場合、直さずに通常通りの矢取りを行う。
- ・看的に帰ってきた後に、直ちにリーダーに報告する。
- ・リーダーともう一人が的の一つ持ち、直す。手を叩き射手に確認をする。

§ 遠近競射

同時に4人以上の順位を決める際は、紙を用いる。

手を叩かずに、赤旗を出したらそのまま出る。

(1) 分担と各仕事の内容

(1) 各大学の主将（代表者）を呼びに行ってもらおう。

- ・進行から遠近が行なわれる旨を聞いたら代表者を呼びに行く。
- ・看的に着いたら進行に準備ができた旨を報告する。

(2) 矢取りをする人 的ごとに1人

- ・雑巾を持って行く。
- ・左手で的や安土をおさえ、羽根に上→奥→手前の順で触れ、3回に分けて矢を抜く。
- ・抜いた矢は矢を持って行く人に渡す。
※順位に関係のない矢は拭かずに持って行き、あとで拭く。

(3) 矢を持って行く人 的ごとに1人

- ・幕の外側に立つ。
- ・左手で矢を受け取り、右手に持ち替える。
- ・射場まで最短距離で進んでいく。
- ・矢は右手をまっすぐにして持ち、左手は肘を横に張る。
- ・矢を渡したら、右手に合わせて左手も肘を伸ばして下げる。（“気をつけ”に近い）
- ・近い方へ掃けていく。

② 注意点

- ・第二射場の看的で赤旗を出し忘れて、しまい忘れてしないよう注意する。
- ・遠近競射で使う的には、中心に印をつけておく。
- ・遠近該当事者が10~12人の場合には一本競射、13人以上の場合には一手競射で人を減らしてから遠近を行う。

その際には進行の指示をよく聞いて従うこと。

射場での遠近作法が終了した後、赤旗をしまう。（臨機応変に）

§ 付け矢

- ・ 輪ゴムは使用せず、射場内の矢立てに矢返しを行う。
- ・ その大学のはじめの4本のみ、看的や審判的の表示を行う。(矢取り時も放置)
- ・ 的ずれの際は進行の指示があれば直す。的の確認は不要。
- ・ 浜医の付け矢の際は、的場係6名が一手引きその後、団体が一手引く。
6名は引き終えたら看的へ移動し、後半に引く人達と交代する。(シフト参照)
- ・ 全ての付け矢が終わったら的をはらい、的張りをを行う。

§ その他の注意点

① 的中の判定

- ・ 大会規定で定められた的中の基準は以下の通り。

1. 次の諸項に該当する矢は的中とする。

(1) 矢先が的輪内にて的枠内に入りたる場合。但し、矢折れ又は筈の飛びたる場合も的中とする。

(2) 矢、的を射抜きて塚(安土)に深く入り、的面に見えざる場合。

(3) 的枠の合わせ目、又は的輪に中りたる場合。

(4) 自分の矢、他人の矢の筈(的輪の内外いずれに在るを問わず)を射て中りたる場合。

(5) 矢中り、的転落し、矢的に付きたる場合。

(6) 的枠を内側より外に射抜きたる場合。

(7) 明らかに中り、その後、筈が地に付たる場合。

2. 次の諸項に該当する矢は外れとする。

(1) 的に矢が中らなかつた場合。

(2) 的枠の外で候串に中りたる場合。

(3) 中り矢か的、又は的枠に中り、飛びかえりたる場合。

(4) 矢掃き中りたる場合。

(5) 矢中り、的転落し、矢的より離れたる場合。

(6) 的枠を外側より内に射抜きたる場合。

(7) 矢の筈を射て外れたる場合。

※自分で判断しかねる場合(特に一年生)は、的場にいる上級生に聞くこと。

② 当日必要なもの

- ・ 矢返し用の輪ゴム 4 箱
- ・ 審判的担当用のイス 4 つ
- ・ 的中箱 12 枚
- ・ ガムテープ (布) 4 つ
- ・ 的 (小的 4 個、遠近的 4 個、ふつうの的 52 個)
- ・ 的張りセット
- ・ 矢立てに貼る紙 (前射場、後射場)、輪ゴム入れ → 進行に渡す
- ・ 電池 (単 3) × 4

※的張りセット以外は前後の看的に半分ずつ分けて置いておく。

§ 当日の流れ (詳細)

	時間	
大会一日目		
開場	8:30	
的付け(付け矢用)		
付け矢	9:30	
的付け(矢渡し用)		
第二回主将会議	11:30	
開会式	12:00	
矢渡し		
的付け(団体戦用)		
男子団体戦1立目	13:00	
女子団体戦1立目		
男子団体戦2立目		
女子団体戦2立目		
片づけ	~17:00	

	時間	
大会二日目		
開場	8:30	
的付け(団体戦用)	9:00	
男子団体戦3立目	9:30	
女子団体戦3立目		
団体戦同中競射		
的替え(個人予選用)	12:00	
男子個人戦予選1立目	12:15	
女子個人戦予選1立目		
男子個人戦予選2立目		
女子個人戦予選2立目		
的替え(射詰め用)	15:45	
男子個人戦決勝一手競射	16:00	
女子個人戦決勝一手競射		
男子射詰め		
女子射詰め		
的替え(遠近用)		
男女遠近		
的付け(納射用)		
納射	17:45	
閉会式		
第三回主将会議	18:30	
片づけ		